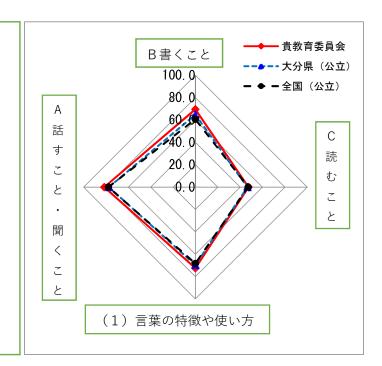
令和3年度 全国学力·学習状況調査結果(小学校:国語)

1 調査結果の分析

			津久見市	大分県	全国
全体			69	66	64.7
	知識・技能	言葉の特徴や使い方	72.5	69.7	68.3
学習指導要領の内容	思考刀·判	A話すこと・聞くこと	81.5	77.4	77.8
		B書くこと	69.6	64.8	60.7
		C読むこと	47.5	46.5	47.2

小学校:国語

- ○全国正答率は全国・県を上回った。
- ○領域別正答率では全国の平均正答率を「話すこと・聞くこと」で3.7P「書くこと」で8.9P「読むこと」で0.3P上回った。
- ○H31年に課題としてあげた「漢字を文の中で正しく使う」「目的に応じて読む,工 夫する」等が概ね結果を出している。
- ○特に、小問3『目的や意図に応じて理由を明確にしながら自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する』では、全国よりも12.2 P上回った。
- ○無回答率が1問(選択式)以外,全国・



2 具体的な改善方策

小学校:国語

○資料や図表と文章を結び付けて読むこと

・スピーチやプレゼン発表の際に、必要な情報を提示しながら伝える活動を取り入れる。さらに、児童が様々な見方・考え方を働かせながら情報を精査して考えを形成するために、生活科や総合的な学習の時間と関連付け、教科横断的に取り組む必要がある。

○漢字を正しく使うことの指導の充実

・継続して、日常の書字活動から文章の前後の関係を考えながら適切な漢字を使う指導を行う。

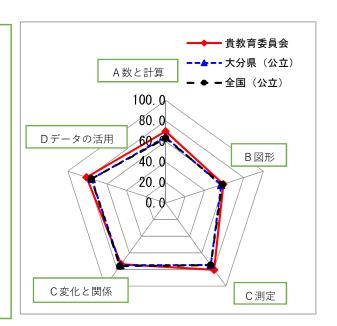
令和3年度 全国学力・学習状況調査結果(小学校:算数)

1 調査結果の分析

		津久見市	大分県	全国
全体		73	70	70.2
学指導要領の領域	A 数と計算	69.8	64.1	63.1
	B 図形	59.1	56.9	57.9
	C 測定	80.4	74.7	74.8
	C 変化と関係	73.6	74.9	75.9
	D データの活用	80.9	75.7	76

小学校:算数

- ○全体正答率は、全国・県を上回った。
- ○領域別正答率では、C「変化と関係」で、全国より2.3P下回ったが、その他は全国・県よりも上回った。
- ○特に、良い傾向として「式や言葉を使って説明する=記述する」問題は、無回答率も引くく、正答率も全国・県を上回った。
- ○小問で見ると、ある1つの量を基に他の数量を求める問題が2問、棒グラフから項目間の関係を読み取る問題が全国・県を下回った。



2 具体的な改善方策

小学校:算数

○論理的に思考をつなぐ授業

・速さなどの単位量当たりの大きさについて、具体的な場面から、どのようにすると比べることができるのか、どのようにして数値化したら良いかについて考える学習活動を仕組む。板書の構造化も併せて取り組みたい。

○データに基づいて身の回りの問題を解決する活動

・目的に応じてデータを集めて整理分類し、データの特徴や傾向を分析して対策 を立てる学習活動を教科横断的に仕組む。

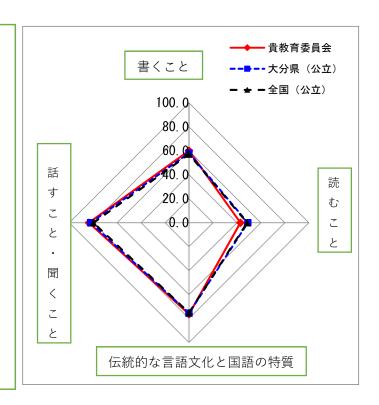
令和3年度 全国学力・学習状況調査結果(中学校・国語)

1 調査結果の分析

		津久見市	大分県	全国
全体		65	66	64.6
	話すこと・聞くこと	83.6	82.1	79.8
)]H-3->- IX	書くこと	60.1	58.1	57.1
	読むこと	42.9	49.1	48.5
	伝統的な言語文化と国語の特質	76.4	75.5	75.1

中学校:国語

- ○全体正答率は全国より0.4P上回り、県より1P下回った。
- ○領域別正答率では「話すこと・聞くこと」「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国・県を上回り、「読むこと」で全国・県を下回った。
- ○小問「話合いの話題や方向を捉えて話す内容を考える」「文章の構成の工夫を考える」など記述式で全国・県を大きく上回った。
- ○「読むこと」の「文脈の中における語 句の意味理解」や「文章の内容理解」で 全国・県より5P以上下回った。



2 具体的な改善方策

中学校:国語

- ○文章の内容の把握、精査・解釈する
- ・必要な情報に着目して要約したり、登場人物の言動の意味などについて考えたりする活動を単元計画を基に意図的に位置づけるようにする。

○考えの形成、共有する

・文章の構造と内容を捉え、自分の知識や様々な経験と結び付けて考えをまとめたり 広げたい深めたりする。つまり、他者の考えと比較して共通点や相違点を明らかにし たり、一人一人の捉え方の違いやその理由などについて考えたりする学習活動の設 定。

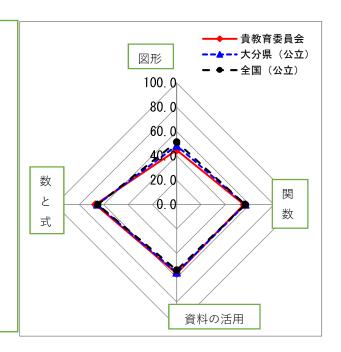
令和3年度 全国学力・学習状況調査結果(中学校・数学)

1 調査結果の分析

		津久見市	大分県	全国
全体		57	57	57.2
学指導要領 の領域	数と式	66.8	65.3	64.9
	図形	44.8	48.4	51.4
	関数	55.3	56.4	56.4
	資料の活用	56.6	55.9	53.8

中学校:数学

- ○全体正答率は全国より0.2 P下回り、県とは同Pであった。
- ○領域別正答率では、「図形」「関数」で 全国・県を下回り、「数と式」「資料の活 用」で全国・県を上回った。「図形」につ いては、全ての問題で下回っている。
- ○特に、大問9「図形」では小問の全てが 全国・県を下回った。
- ○小問「数学的な結果を事象に即して解釈 し、事柄の特徴を数学的に説明すること」 では、正答率は全国・県を上回るものの唯 一、無回答率が高かった。



2 具体的な改善方策

中学校:数学

○詳しい実態把握

・「図形」については、基礎的な「知識・技能」に課題があるのか、「思考力・判断力・表現力等」に課題があるのか、実態を把握する。その上で、単元を通して3つの資質・能力を適切に位置づける。

○数学的な表現を用いて事象を表現する

・目的に応じて的確な数学的な表現を選択したり, 1つの対象の幾つかの数学的な表現を相互に関連づけたりする学習活動

○図形についての概念、性質や位置関係を理解し、論理的に考察し表現する

・数学的な推論の基礎となる定義の意味を理解させた上で、推論をする際には、何を根拠として用いるのか、どのように用いればよいのかなどについて指導をする。

令和3年度 全国学力·学習状況調査結果(学校質問紙)

1 調査結果の概要

小学校:学校質問紙

- ○学習規律については,各小学校で組織的に取組がなされており,落ち着いて授業に取り組むことができている。
- ○教職員は、学習における課題解決に向けて協力できる体制にあり、研修等の成果を教育活動に還元できている。
- ○児童質問紙において危惧される「家庭学習の在り方」だが、学校としては課題の出し方について教職員で共通理解を図ることができている。→▼家庭学習を教員の指導改善や児童の学習改善につなげることに課題がある。
- ○国語・算数において「知識・技能」の定着のための学習活動や補充的な学習指導はできている。▼発展的な学習や目的を持たせたり、実生活と関連付けたりするなどの工夫の必要がある。
- ▼ICT機器を活用した取組については、環境が整っていないことから積極的な活用ができていなかった。→ (9月現在) 〇研修の積極的な参加や授業の中で児童と教職員がやり取りをするようになっている。

中学校:学校質問紙

- ○生徒一人一人の良い点や可能性を見付け評価する取組や、集団で挑戦する取組は計画的に行われている。
- ○近隣の小学校と研修等の場を持ち、支援が必要な生徒や学力分析等の共通理解を図ることができている。
- ○調査の結果を生徒の傾向や課題を把握,課題が見られた点を中心に校内研修を実施など授業改善に活用することができている。→今後,把握し活用したことの検証をする必要がある。次年度へつなげることが課題。
- ▼学習規律についてのラインは提示されているものの、落ち着いた授業が進められるとは言いがたい。 生徒質問紙「教科を好き・分かる」において、教科によってばらつきがあるため、組織的な取組が必要。
- ▼ICT機器を活用した取組については、環境が整っていないことから積極的な活用ができていなかった。→ (9月現在) 〇研修の積極的な参加や授業の中で児童と教職員がやり取りをするようになっている。

2 津久見市の学校質問紙調査の結果をふまえて

〈組織的な取組の徹底〉

- ◇教科横断的な視点にたった授業の推進
- 生きて働く知識・技能を習得するために教科を関連付け、学びの必要性に迫る単元計画の設定。
- ◇個別最適な学びが保障された指導の充実
- 一授業の中で、支援の必要な児童を見とり・手立てを持つ場面の設定。
- ◇ICTプロジェクト会議の実施
- ICT機器を活用した授業実践の交流(研修の充実)を図る。

令和3年度 全国学力·学習状況調査結果(児童·生徒質問紙)

1 調査結果の概要

(別紙参照)

児童質問紙

- ○国語・算数ともに「わかっている」と答える児童が90%以上。
- ○「好きか」という問いにも、国語・算数ともに全国・県よりも肯定的に捉えている。しかし、算数の80%に比べると国語の59%とは低い。
- ○H31年より課題とされていた「自己肯定感」であったが、「自分には良いところがあるか」の問いに対して肯定的に答える児童が82.1%と改善が見られつつある。

生徒質問紙

- ○国語・数学ともに「好きか」「わかっている」の問いに対して, 肯定的に捉える生徒は, 全国・県を下回った。
- ○特に、国語において「わかっている」と答える生徒は、全国・県と比べて16 Pも低い。
- ○「自分には良いところがあるか」の問いに対して肯定的に捉える生徒は、全国・県と比べて9P以上低い。
- ○家庭学習の時間について、約半分の生徒が「1~2時間」と答えている。

2 津久見市の児童・生徒質問紙の調査結果をふまえて

◇基本的生活習慣の徹底に向けた取組

・「つくみっこ子みんなで守ろう!」(「早寝・早起き・朝ご飯」「あいさつ」「通信機器の使い方『つくみっ子を守る10か条』」)の周知のために、年度当初に全家庭に向けポスターを配付し、学校、保護者、地域と連携した取組の継続。

◇自尊感情、規範意識、自己有用感の伸長に向けた取組

- ・児童生徒の頑張りや成果を周囲から「認められている」と実感させる取り組みの推進。
- ・道徳の時間を要として、学校の教育活動全体を通して豊かな人間性や社会性をはぐく む道徳教育の一層の充実。
 - →「人間関係づくりプログラム」研修の実施

◇学習習慣の定着に向けた取組

- ・「家庭学習のすすめ」等の活用と、保護者との連携の推進。
- ・家庭学習の内容の検討。(授業と連動した家庭学習の推進)

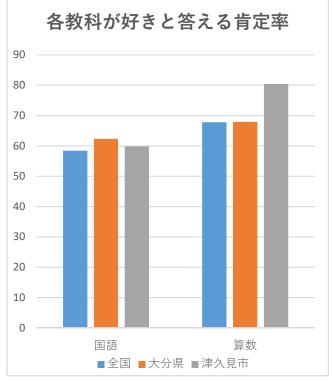
◇学級、学校生活の向上に向けた取組

- ・hyper-QU(年2回)を活用した、学び合い・支え合う学級集団づくりの推進・継続。
- ・児童生徒一人一人のよさや可能性を見つけ、児童生徒に伝える教師の姿勢づくりの推進・継続。

全国学力・学習状況調査 小学校 質問紙より

各教科どれくらい好きか

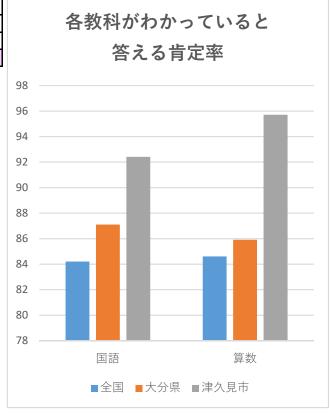
	<u> </u>	
	国語	算数
全国	58.4	67.8
大分県	62.3	67.9
津久見市	59.8	80.4
市一全校回答塞	1 4	126



各教科どれくらい分かっているか

	国語	算数
全国	84.2	84.6
大分県	87.1	85.9
津久見市	92.4	95.7
士	0.0	11.1

8.2 11.1

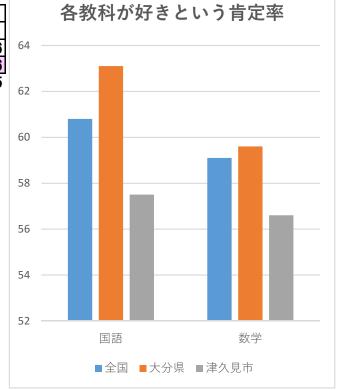


全国学力・学習状況調査 中学校 質問紙より

各教科どれくらい好きか

	H WILLIAM	<i>7</i> , C <i>7</i> 0
	国語	数学
全国	60.8	59.1
大分県	63.1	59.6
津久見市	57.5	56.6

-3.3 -2.5

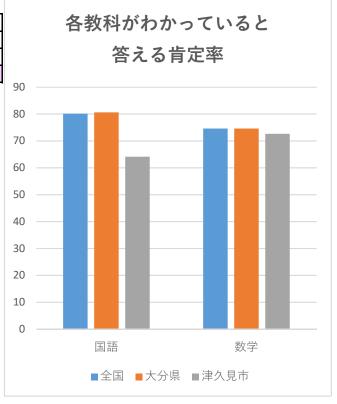


各教科どれくらい分かっているか

	国語	数学
全国	80.1	74.6
大分県	80.6	74.6
大分県 津久見市	64.1	72.6

−16 −2

全国,県と比べても,国語・数学を肯定的にとらえる生徒が少ない。



質問紙より「自分には、よいところがあると思いますか。」

小学校

	当てはまる	どちらかと言えば, 当てはまる	どちらかと言えば, 当てはまらない	当てはまらない	肯定率
全国	36.2	40.7	15.5	7.5	76.9
大分県	42.5	42.5	16.7	7.2	85
津久見市	23.9	58.2	15.2	2.2	82.1

質問紙より「自分には、よいところがあると思いますか。」

中学校

	当てはまる	どちらかと言えば, 当てはまる	どちらかと言えば, 当てはまらない	当てはまらない	肯定率
全国	34.5	41.7	16.6	7.1	76.2
大分県	34.2	41.9	16.8	7	76.1
津久見市	22.6	44.3	29.2	3.8	66.9

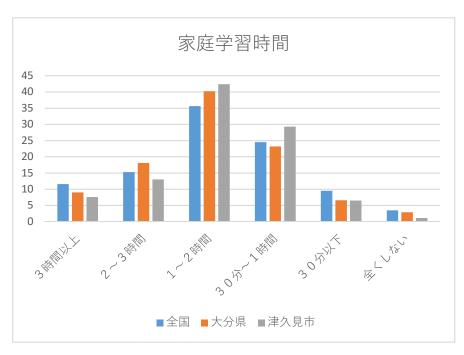
5.2

-9.3

質問紙より「学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間勉強しますか。」

小学校

	3時間以上	2~3時間	1~2時間	30分~1時間	30分以下	全くしない
全国	11.6	15.3	35.6	24.5	9.5	3.5
大分県	9	18.1	40.2	23.2	6.6	2.9
津久見市	7.6	13	42.4	29.3	6.5	1.1



中学校

1 3 174						
	3時間以上	2~3時間	1~2時間	30分~1時間	30分以下	全くしない
全国	12.3	29.5	34.1	14.1	6.4	3.5
大分県	12.5	34.6	35.9	11.5	3.8	1.6
津久見市	5.7	19.8	49.1	17.9	4.7	2.8

